

市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」
【地域別】幸学習館（概要）

日時：令和7年2月8日（土）

13時30分～15時35分

場所：幸学習館 講堂

1 開会の挨拶

（改革推進課長）

それでは定刻となりましたので、ただいまより、市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」を開催させていただきます。

本日は、土曜日の開催にもかかわらず、多くの方にご参加いただきましてありがとうございます。

私はタウンミーティングの事務局を務めております、市長公室改革推進課の奥野と申します。よろしくお願いいたします。本日の予定ですが、この後、市長から初めのご挨拶をいただいた後、意見交換会に移りたいと考えております。

意見交換会終了後、最後、締めの一言を市長からいただいて、午後3時終了予定としております。それでは、市長、よろしくお願いいたします。

（市長）

皆様、こんにちは。土曜日の午後のひととき、お集まりをいただきましてありがとうございます。一昨年から市長に就任いたしまして、今2年目ですが、去年は1時間ということでやっていたんですけれども、なかなか1時間では終わらないなということで、今年からは1時間半という形で時間を取らせていただいております。極力多くの皆様方のご意見にお答えをしていければと思っておりますが、細かい数字のことであったりだとか、あるいは、先ほど午前中西砂学習館でやったんですけれども、東京都のこととかそういうことになりますと、立川市でやりますと言えないこともありますので、それはお預かりしてお伝えしますとか、後日回答しますという形にならざるを得ないところもあることはご理解をいただければと思っております。

また、併せてですが、今日お子さんと一緒に参加者の方いらっしゃるんですけれども、昨年11月に、子育て世代向けに子ども未来センターでタウンミーティングを予定していたんですけれども、私、風邪をこじらせていたものですから、子どもたちがたくさんいる場所で、咳をしながらやっているのもいがかかなということで、急遽中止とさせていただきました。もし今日そのとき来られなかったから来ていただいたという方がいらっしゃいましたら、二度手間のお運びをいただいたということで、その点については心からお詫びを申し上げます。どうぞ今日、限られた時間ではございますけれども、皆様方の声を立川の市政に生かしていくために、いろいろなご意見を頂戴をできればと思っております。

なお、もう来週には記者会見で発表しますが、令和7年度予算の原案については、協議し、決定いたしております。金額的には一般会計で約900億円弱の予算を決めております。月曜日に議会に送付しますので、それまでは予算の内容、ここで質問がきてそれやるんだけどどと言いたいんですけども言えない、歯切れの悪いところもあるかもしれませんが、ニュアンスは出したいと思いますので、その点についてもご丁承いただければと思っております。どうか今日はよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(市長)

それでは、ただいまからスタートをしたいと思います。全部丸投げされておりますので、より多くの皆様方の声をお聞きができるようにしたいと思います。なかなか一番最初は手を挙げづらいと思いますが、我こそはという方、よろしくお願いします。

(参加者)

私の立川市の感想としては、お金もうけには金をかけているけれども、市民生活には金をかけていない立川市という感じなんですね。金の匂いはするけれども文化の薫りが無いという感じがするんです。つまり、文化行政についての立川市の姿勢がかなり貧弱であると思っているんです。例えば、建物でいえば、図書館、博物館、美術館など、あるいは科学館とか水族館とか、つまり、どうしたらこうなるんだろうとか、こうすれば面白いなとか、もっと調べたいなとかというような、そういう働きをする、機能を持つ仕掛けがないんですね。確かに競輪場があって競馬場もございます。でも、そういう市はお金があるからちゃんと使っているんです。例えば、府中市、いろいろお金をお持ちのようです。でも、ちゃんと美術館にも使っている。でも、お金がない青梅市だって美術館はあるんです。ところが、幸か不幸か立川市というところは立川市がやらなくても、例えば東京都とか、国がやっている施設があったものですから、それにおんぶしちゃっているという傾向があるように私には思えるんです。私は、図書館について関心を持っていたんです。東京都は、多摩地区に立川市と青梅市と八王子市に、都立を持ちました。ところが、都立立川図書館は市民にも開放していますから、都立図書館のあるところは、全て3市とも市立の図書館が遅れたんですね。立川図書館ができたのは、今から何十年前ですか、40年ぐらい前ですか。あるいは50年ぐらい前かもしれません。実は、私が立川の図書館づくりを始めたのは、一人で署名簿を作りまして、あちこちに嫌みを聞きながら置かせていただいて、署名を集めて、やがてそれに賛同する方がいらっしゃって、会議になり、請願を出し、6,000名近い署名を頂いて、今の図書館になりました。でも、残念ながら独立の図書館ではございませんね。

(市長)

独立の図書館です。立川市の中央図書館は立川市営の図書館です。

(参加者)

いえいえ、建物として独立はしておりません。

(市長)

建物は、複数のフロアを床取得をしています。

(参加者)

はい。ですから、図書館という建物は。

(市長)

それはご意見いろいろとあると思います。

(参加者)

それから、分室の図書館ございますね。8つございます。どの建物がどういうふうになっているのか、私全部見てはございませんが、若葉図書館が一番私が近いところなんですね。縁があって幸図書館にも行きました。幸図書館に行って、その貧弱さにびっくりしたんです。若葉図書館だったらまあこんなものかなと思っていました。でも、幸図書館に行ったら、学校の図書室よりも狭いんです。図書館と言えるだけの広さを持っているのかなという気がしました。

私が今一番先に手を挙げたのは、どうしてもこのことだけは言いたかったので、幸図書館に行ってみて、その貧弱さに本当にびっくりしました。ご覧になりましたか。

(市長)

行っています、もちろん。

(参加者)

どうでした、ご感想は。

(市長)

後ほどお答えしますが、同じ感想です。図書室という感じです。

(参加者)

バス停のところには、幸図書館と書いてあります。館と言うにはあまりにもひどいというのが、実感があります。どうかぜひご検討ください。

(市長)

ありがとうございます。

立川市は文化の薫りが少ないということで、ただ一方で、お金云々という話もありましたけれども、私はバランスだと思っているんです。稼げるところでは稼いでそれをどういうふうにするのかという話で、競輪事業、今大体毎年1億とか2億の繰入れです。ただ、これは40年ぐらい前かな、私が子どもの頃は最大で70億、競輪からの売上げで立川市の市財政に入っていました。そういったことを受けて、文化のどの部分に着目をするのか。この学習館というのは昔公民館で、公民館法に基づいて国の補助をもらって建てて、それ以外にも立川市学供施設、先ほどの幸図書館とは言っているけれども室みたいなところ、こぶし会館だとかそういった学供施設等と、立川市に関しては、過去そういった競輪事業等の財政が豊かであったがゆえに、他の地域にないものもできているということがあります。

ただ、その図書館という話から申し上げますと、中央図書館はファーレ、立川駅前の中に4フロアあるということで、それは建物1棟で建っているものがあるのか、中の何かの施設の中であるから駄目なのかということではなくて、延床面積だとか使いやすさの問題なのかなと思っているんですけれども、確かに今最後にご指摘をいただいた幸図書館は、私も市長になってからなるべく現場を見たいと思って、市内の出先機関を市長だということがばれないうちは、一市民のふりをして、そこでちゃんと市民への行政サービスが行われているのか行われていないのか、ここにもふらっと来て市民対応しているのを見ました。その市民対応をされていた市民の方はどうでした今と聞いてみて、その方はたまたま褒めていただいたので、職員には今の方はちゃんと喜んでいたよということで伝えるように、良いことも悪いことも伝えるようにしています。

ただ、そういった中で見ている中で、確かに幸図書館は、指定管理で満足度調査からすると、

広さの部分は除くと良いと、ただ、どう見ても図書館とは言えないよねと。だから、その幸図書館をどこか別の場所に用地を取得をして、あるいは賃貸、テナントを借りて広げるのがいいのか、それともまだ図書館がないところに設置をするほうがいいのか、それは市内全域の中でどういうふうに配置を考えていったらいいのかというところで、検討していく必要があるのかなと思っています。この図書館行政に関して、また今話があった博物館、あるいは、たぶん歴史民俗資料館のことを言われていると思うんですけども、私もこの4月から新しい基本構想が始まるそういった大きなタイミングに、今まで教育委員会にぶら下がっていた社会教育部門を市長部局に移管をしようと、そのほうが直接的にいろんなことを行えるし、図書館もただ単に知の集積で、そこからその知を発信するだけではなくて、様々な人がもっと集まれるような、そういったある意味図書館のたぶんイメージをされるとすると、今多摩市でとてもいい図書館ができたじゃないですか、ご存知ですか。

（参加者）

国分寺市ですか。

（市長）

国分寺市ではなくて、多摩市です。国分寺市の図書館は、都立の図書館が立川市から移転したものです。多摩市長にご紹介いただいて、多摩市の図書館はとてもいいですよ。それは施設が新しいということもあるんだけど、取組内容もとても開放的で、ただ単に図書の開化とか、レファレンス機能というだけではなくて、市民の皆さんとのメッセージとか、いろんなことでやっていていいなと。こういう図書館というものとほかの機能を合体させたいなみたいなことを考えて、移管したいなということで、教育委員会とか審議会で投げかけたんですけども、市長部局のほうに移すと政治的中立性に欠けるというご意見があり、今回は見送って教育委員会のままとさせていただいたんです。地方に行くと洒落た科学館とか、綺麗じゃなくても面白い科学館に出会って、市長になってから子どもを連れていったんですけども、あまりにも説明の仕方や、対応が良かったので、そういうことをどんどん取り入れていきたいなと思ったんですが、反対のご意見があつて。立川市は商業のまちで発展してきたから、その文化財を観光に使って、人が見に来にくるように、収集していく必要があるじゃないですか。見ってもらうために文化財は集めて、それを市民に楽しんでもらって、さらにそこに解説が加わるからいいのであって、ただ収集したいというだけだと私は意味がないと思っています。だから、場所も変えていきたくったんですが、立川市は商業で発展したまちだから、観光に消費をされるので、そういうところは注意していただかないという話で。

私の政策の中に一つ、みらいアートファーム構想たちかわというのがあって、市民の皆さんにはまだ公表できる段階ではないので明らかにしておりませんが、文化というのは2つあると思うんですね。アマチュアの市民が参加、自分自身が楽しむ文化と、プロを通じていいものを見するという文化。そういったものを掛け合わせて、立川市でいろんなところでプロ、アマ問わず、市井で埋もれている方たちが活動できるような事業と、またそういった拠点を立川市の中につくっていききたいという、そういった思いは持っています。ただ、施設建設には時間がかかりますので、文化行政には、稼ぐところは稼ぎながら文化行政にもお金は使っていきたいと思っています。

では、次の方。

（参加者）

私の家の近くの幸福社会館のこの通り（平成新道）は、ツツジがすごく勢いがよくて、通りがもうツツジに占領されてしまうみたいな感じなんです。それで、近所の人にも言ったんですけども。

（市長）

道路に出てしまっているみたいな感じなんですか。

（参加者）

半分近くツツジが占領しているんですね。それで、自転車3人乗りとか、お子さんを連れて、すごいスピードで通るんですね。それを通してあげていいんですけども、時間がかかるんですよね、混んで。そういうことが、周りが、若者がすごいスピードで行ったり、それで1回は電話で立川市役所をお願いしたんですけども、現場に行ってみますとおっしゃったんですけども、行ってくださったかどうか分からない。

（市長）

分かりました。ツツジが生えているところは公園ですか、福祉会館ですか。

（参加者）

全体に。

（市長）

全体に、生垣みたいにね。

（参加者）

1か所じゃないんです、通り全部。だから困るんです。

（市長）

いずれにしても現場を見て。それが個人のお宅のものだと。

（参加者）

個人ではない。市の歩道に。

（市長）

市の歩道、分かりました。では、道路課に話をして、現場を見させて、その見通しだとかそういう部分とか、あと、通行の障害になるようでしたら剪定をするようにと。ただ、剪定の時期もあって、これからツツジが咲くのに、咲く前に切っちゃうと、ツツジを楽しみにしている人もいますので。ツツジが咲き終わった後に次に向けて剪定しようかとかと、これはほかのところでも、何でこれから咲く前に剪定しちゃうんだというところもあるので、ちょっとタイミングを計る必要があります。

（参加者）

ツツジにはかわいそうなんですけれども。

(市長)

それはそれで、よく桜の木も何十年かすると根腐れして倒れる危険性があるので、桜の木を切っちゃ駄目とかと言う人もいるんだけど、定期的に桜とかだと抜いて新しいのに替えていくという。木のもともと持っている特性もあるので、そのあたりは立川市も道路の街路樹の剪定等に関しても、今までは何でもいいよというので業者さんに委託をしていたのを、その委託の基準を変えてちゃんと資格を持っている剪定の技術師がいるところに発注をするという形で仕様書を変えましたので、そういった適切な時期に適切な形で剪定ができるように。とはいっても、本当に交通事故が起きるとか何かという、逼迫した危険性があるのであるならば。

(参加者)

あります。

(市長)

どちらを優先するのかという話の利益衡量になるので、それは見させていただいた上で。

(参加者)

犠牲者が出ないうちにお願ひできればと思います。

(市長)

分かりました。道路課に話をします。

とにかく安全性重視で、でも、5月にはツツジを見たい方もいらっしゃるでしょうから、そこはうまくバランスを取りながら対応させていただければと思います。場所も含めて。市内を俯瞰しながらということ。

では、次の方。

(参加者)

私は、以前、美術教師をしておりまして、子育てのために一度退職したんですけれども、また再就職で三鷹市の教育委員会、同じ市で勤めまして、特に不登校のお子さんとか発達障害のお子さんたちの学習支援員というものを11年ぐらやっていて、担当したお子さんたちが100人以上。それから、三鷹市は22校あるんですけれども、20校訪問して、どんどんどんどん発達障害の子が増えてきてしまって、もういろいろなストレスで退職してしまったんですけれども、その後海外旅行していて、そこで知り合った女性の方にこんな経歴なんですけれどもという話をしたら、たまたまその方が脳科学者の方で、著作は旧姓を入れて木村－黒田純子さんといって、私の疑問にばっちり答えてくれるような、地球を脅かす化学物質という、ニコチノイド系の化学物質がアレルギーとか発達障害にかなり影響を与えているということで。それで、そうなんだと、何でこんなにどんどんどんどんうなぎ登りに発達障害の子が増えている。それに伴って不登校の子たちも、適応できないから学校に来られないというようなことで、前年のこの市長さんと語る会で、元看護師で今は管理栄養士をしている女性も発言していたんですけれども、給食に有機野菜とかを使ってほしいというのは、やっぱりそういう化学物質が子どもの体に蓄積して、あるいはお母さんの体に蓄積して、そして発達障害という原因になっている可能性がとても高いので、もともと彼女はコンビニ食、看護師をやっていたときには忙しいからそういうのを食べて、やはり生まれた子がちょっと発達障害系なんですね。本人も子どもも食事に気をつけるようになって、今、随分回復してきました。広報にも特別支援学級が増えてきた

ということを書いてくださって。

それから、三鷹市の例だと、小学校15校、それから中学校7校が特別支援教室全部あるんですよね。教育委員会の本部になっていて、そういうことも大事なんだけど、基本はやっぱりお母さんが子どものご飯を手抜きしてとか、安いからそういうものを食べさせちゃうとか、今の野菜はものすごい栄養価が下がっていて、昔の野菜と比べて、そういうことがあるので、ぜひそちらのほうも進めてほしいというのと、もう一つは、栄町の南部公園の脇の駐車場にラウンドアップというような除草剤、平気でまく人が結構見かけました。

（市長）

市民の方ですか。

（参加者）

はい。某本のリサイクル店とかそういうところでもまいていたり、私よく注意しています。やっぱり公園のそばだし、家にも流れてくることなので。黒田さんに講演会とか来てくださいと言うとすぐ来てくれるので、立川市でもそういう勉強会とかして学んで、いろいろ利害があると思うんですよね、こういう商品は使っちゃいけないというのはありますけれども、でも、基本的にこういうものがあるんだというようなことを、みんなの共通理解になっていけば、子どもたちの未来のために良くなるんじゃないかと思っているんです。よろしくお願いします。

（市長）

ありがとうございます。

教育委員会が所管なので、あまり私が踏み込んで答えると所管外になってしまうのであれなんですけれども、今、自閉症であったり、発達障害等々の子どもたちが増えているということは、立川市でもこの間、そういう認識を教育委員会も持っているということです。予算をつけるのは市長ですから、立川市においても特別支援学級の小学校の枠も足りなくなっている、また、中学校はこれまで立川市ではやってきてなかったということなので、それはさすがにやったほうがいいよねと。ただ公立学校の教職員は東京都の職員なので、東京都から派遣をしてもらわなくてはいけないということで、実際に開校をする前の6月までに東京都に教員配置のお願いをしなくてはならないと。ただ、それも配置されるかどうかというのも、当然今、教員不足というのも、ご自身がなさっていたのでご理解いただけたと思うんですけれども、立川市の方針としてはそういうちゃんと増やしていこうという方向性で今考えています。

原因についてなんですけれども、確かに、私も一応書籍を見てみたいと、いろんな世の中には学説があるじゃないですか。そういうのをやはりエビデンスがどこにあるのかというところを得ながら、おっしゃっていただいたように、これは駄目とかと言っちゃうと、それは行政としての公平性とか、民業圧迫とかということになってしまう。情報提供という形では、こういう情報もあればこういう情報もあるよということで、選択するのはそれぞれのご家庭の考え方だという形にしていくのが、片方の意見だけ通ってまた真逆の意見もあったりする場合もある。それについてどちらが、立川市が正しいのかということを経済に判断するのも危険があるので、ただ感覚から言うと、私らの子どもの頃に比べると、自閉症等とはかくとして、アトピーとかは多いじゃないですか。アレルギーを持っている子どもたちとか、食べ物アレルギーの問題だとかも。だからそこというのは、私らの50年前、40年前、小学生や中高生の頃とは明らかにたぶん、何か蓄積されているのかもしれないけれども、やっぱり日本人の子どもも今、我々と言ってはあれなんですけれども、私の世代と比べても、まず足の長さが全然違うじゃ

ないですか。

日本人の体型自体が変わっているということは、それは遺伝子なり何なりが変わってきているという、その変わってきているものというのを、たぶん一番、早計には言えないけれども、食生活も一つの理由としては、それは化学物質云々の問題じゃなくて、食べる物が変わってきているというのも、もしかしたらあるのかなと。ただ、私自身もこの黒田純子さんという方がどういう方なのか分からないので、自分なりに調べた上で、もっともだということであれば、そういう方の意見もあるしというところで、何かしらの形で市民が知る機会をつくっていただければと思っています。

あと、除草剤の件は、本当に普通、専門家がやっているんだったらそれはともかくなんだけど、勝手にまかれているのは問題なので、場所は目に浮かびます。何時ぐらいにまいている人が多いですか。まいている方に一応それはちょっと注意しなくてはいけないのかなと。

（参加者）

この間も、議員さんと語る会でお話ししたら、公園の中はもうそういうものは使わないようになっているんだけど、その脇のというのは個人的なことなので。

（市長）

個人私有地をしているものに対してはそうなんだけれども、立川市の街路樹にまかれているとかというのだと、それは極端な話、器物損壊で被害届を出さなくてはいけないということもありますので、そこの部分は、どちらかというと私有地ですか。

（参加者）

私有地ですね。

（市長）

だとすると、なかなか市としてやめてくださいというのは。

（参加者）

個人的に言いに行くしかない。

（市長）

検討させてください。個人的に言ってご近所トラブルになる場合もあるじゃないですか、それが発端で。そういう場合に、宿題でいただけますか。何か個人宅であまり言い過ぎるのはあれなんだけれども、近所トラブルになってもあれだし、東京都の消費者何とかで言ってもらえるのか、何かいい方法がないかどうかというのは、この場では思いつかないので。

（参加者）

ありがとうございます。

（市長）

では、次の方。

（参加者）

皆さんのお話の続きというところもあって、私も気になっていたのは、まず図書館のお話で、今いろいろ市長からご説明があったので、ある程度腑に落ちたというか、納得したんですが、市長の思いをいつ頃どのように実現させられそうな目処というか、イメージを持っていच्छやるのかというのが、まず1番目です。

それから、2番目に、市長が当選なさる前にタウンミーティングいくつか開かれました。私、たぶん3回ぐらいは出ているんですけども、その中でいろんな細かいことから大きなことまでいろんな要望が出てきたのですが、その実現率は今どのぐらい、どんなふうになっているかということを知りたいです。

それから、最後に、以前あったくるりんバスのルートが廃止されていて、これは住民のかなり多くの人の要望として、復活させてほしいということがあります。このくるりんバスのルートを復活させる、またはいろんなやり方があると思っていて、前と同じやり方じゃなくてもいいとは思いますが、デマンドとかいろいろやり方があると思いますが、どのような今段階にきているかということ、この3つをお話、お願いしたいと思います。

（市長）

一番最初の図書館についてなんですけれども、これは一旦、今教育委員会がそのまま所管したいということなので、教育委員会に判断を委ねたい、見守りたいと思います。とりあえず私もせっかちなので、改善が不十分なら教育委員会には改善を促す、促しても駄目だったら、市長部局に移管していくという段階になるのかなと思います。幸図書館の件も、何かしたいなどは思っているんですけども、一番は場所の確保をどうするのかというのと、地域の偏在の部分のどうするのかというところの課題はちゃんと手順を踏まないと、そこばかりみたいな話になってしまうと。でも、明らかにあそこは図書館じゃなくて図書室だよなという認識は持っています。なので、実現の可能性は段階を踏んで。

それぞれ私が選挙前のことですから、これは私の政策形成の中で、選挙のときに市長公約という形にするときに参考にして、ただ、公約の中には入っていないすごい小さな話で、福祉会館のお風呂にドライヤーが欲しいという、それは買えばいいじゃんという話が実はあって。それはもう諮るまでもなくつけてあげなよと。ただ、盗まれないようにしなくてはいけない工事費のほうがかかったという、ドライヤー本体よりも。でも、それは実現します。

その一方で、市長公約という形で私は今回50項目の公約を掲げさせていただきました。先ほどおっしゃっていただいた学校給食の無償化は、初め小学校だけと、立川市の財政上ではそれしか見積りができなかったと言わなかったんですけども、私やると言ったら周りが騒いでくれて、東京都がお金を半分出してくれるというので、だったら中学校までできるよねというので、中学校までやるようにしました。それ以外にもいくつか実現できたよというのと、あとは条例系だとか、来年度にも条例を制定するものはあるので、何だかんだで、まだ完全に完成まではいっていないんですけども、50項目のうちでできているもの、何らかの形でもう手をかけて取りかかっているものについては、市長公室の調べによると、40項目、8割は実現に向けて手がかりができ、あとの10項目に関しては、他団体だとか、あるいは実施のやり方をどうしたらいいのかということところです。現実には市長になってみるとやり方を考えなくてはいけないよねということもありますので、私の任期中になるべく多く実現したいし、一つの項目はもう夢物語で、私の1期目、2期目があるかどうかは分かりませんが、あと私がやるかやらないか次第ですけども、2期目に向けて足がかりをつけて、将来、私が政治家のうちに実現をしたいなという項目もあるので、2年目の予算を組んだ段階で40項目ぐらい、8割方、端緒はつけているということでご理解をいただければと思います。

くるりんバスもその一つでありまして、今地域活性化協議会というものを令和6年度にして、令和7年度に計画、地域の皆さんのアンケートを取って計画を策定する予定になっています。その計画に基づいて、先ほどもおっしゃっていただいたように、今路線バス、立川バスと西武バスが立川は走っていますけれども、どちらもよく要望で、今路線が減っているということを伺います。立川バスに聞いても西武バスに聞いても、もう運転手がいらないということで、もうお金の問題ではないと。昔だったら補助金を出してくれれば残しますとかという話があった。いまはお金をもらっても運転できる人がいないからもう無理ですということなので、そういう状況を踏まえると、今の形態のくるりんバスを増やすということが現実問題としてはできない可能性がある。そのことを前提にしながら、ただ、地域の皆さん、これからだんだん立川市も高齢化は、これは日本全体の問題だし、地域の中でこの幹となる交通の部分はいったん事業者の利益をあまり阻害しないようにしなくてははいけないけれども、枝の部分と葉っぱの部分をどうするのかというところは、くるりんバスが可能なところはくるりんバスだし、あのサイズ感で無理だということであるならば、国分寺市のぶんバスのように通勤バスと言われていた11人乗りのバスだったら、普通免許の2種免許で運転できるもので、人が確保はできるのかできないのか。さらに、それも無理だということであるんだったらデマンド型であるとか、あるいは地域にNPOとかを団体をつくってもらって、乗り物は立川市で例えば用意しますと。地域の中で料金も決めてやってくださいということであるとか、さらに、将来的にモビリティが発達して、今電動キックボードとか、あれが3人とか4人とかになったら、それで、例えば、この近くで言えば、その団地の中とか、表に出てくるところまでは、自動で、自分でシルバーカーのレンタル版みたいなものとか、たぶんこれから技術が進んでくるといろいろになると思います。

ただ、自動運転というところも、今実証実験をやっているじゃないですか。ただ、今の実証実験は、実証実験をやるために運転手ともう一人ついて、2人つけてやっている。ただ、そこを立川市で同じようにやるというのが今現実的なものかどうか。どことは言いませんけれども、あそこのルートだったら実証実験をやっても交通事故の可能性は少ないんだよなと。バス停もなく行ける路線が1つだけあるんだよなと。あとでみんな調べてもらえば何となく分かると思うんですけども、そこだったら何かこう、自動運転の実証実験ができるのではないのかなと。それは私、事業者さんがそういう思いを持ってくれないとできないので、今後の可能性に関しては、私が公約をつくったときにはくるりんバスをもう少しちゃんとルート、需要を考えて、みんなが乗りたくなるようなルートでつくりたいなと思っていたんですが、予定が狂ったのが運転手がいらないところがネックになってしまうので、方策は変えないと。もともとはくるりんバスというよりも地域の足をどういうふうに確保していくかということなので、たしか、令和8年度からという計画で、令和7年度中に計画を策定をして、どこからやっていくかという。実際に何か動いているなというのが皆さんの目に見えるのは令和8年度予算の段階で予算づけして、ではここからこういうふうにやっていこうということで見えてくるのかなという、そういうスケジュール感です。

どれぐらい進んでいるかという広報の在り方も、来年以降、広報紙も刷新しようかなと思っています。でも、全て紙媒体に書くのがいいのか、紙面には限りがあるじゃないですか。だから、その紙媒体と電子媒体との使い分け、インデックスだけは紙媒体でお知らせして、深い情報を知りたいときにはそっちに誘導するとかという、いろんな広報の仕方というのも広報課で検討していますので、そこら辺は見ながら、これでも駄目であればまた変えれば、全部トライアンドエラーで私はどんどんアップデートしていけばいいのかなと思っています。

次の方、どうぞ。

（参加者）

私は、子育て世代で、今3歳になろうとしている子どもがいます。妻は専業主婦をしておりました。一時保育というところが、立川市は結構、ホームページで見るとあるというふうに見えるのが実態です。ただ、実際に使おうとすると使えないというのが実態かなと思っていて。妻から実際にずっと子どもといると疲れてくるというところもあるので、そういうときにやっぱり行政のサポートというところで頼りたいと思って。使おうとすると使えないということがあって、前月に来月のどこか指定をして、1日2日取れるかどうかというような一時保育という状況なので、こういったところは、来年から使うことはないと思うんですけども、後々のいろんな家族のために、そういったところは何かしら改善していただけるといいかなと思っています。それが1つです。

もう一つが子どもが通う小学校ということだと、やはり自分が通っていたときの幸小学校とかが経年劣化でそのままですというように見えるような形があります。

（市長）

幸小学校、生徒さんから直訴を受けて、教育長と一緒に見に行ってきました。確かに、科学センター、その学校で子どもたちに囲まれて、学校いつになったら綺麗になるんだと。偉いじゃないですか。その思いにはちゃんと大人は応えなくちゃいけないから。

（参加者）

少し不安になるというか。

（市長）

雨漏りしそうなところもある。

（参加者）

子どもからすると、やっぱり清潔感があるという、すごくやっぱり変わってきていますので、そういったところは変えていっていただければなというところなんです。

最後なんですけれども、先ほどツツジの話があったんですけども、平成新道というんですか、あそこの周りはずっと歩道にたぶんツツジの植栽があると思うんですけども、ツツジの植栽をなくしてくれというわけではないんですけども、あの植栽があることによって歩道に結構ごみがたまっているというところとか、あとは、緑地の落ち葉ですかね。歩道に残ったままで、雨が降ったらぐちゃぐちゃになってしまっていて滑る、危ない。かといって、車道を自転車で走れる人もいれば、歩道を走る方もおられると思うので、危ないというのが正直なところなんです。

なかなか予算とかいろいろ配分は難しいというお話はあったかなと思うんですけども、よろしくお願いします。

（市長）

いろいろとご配慮、ご提案いただきありがとうございます。私はバランスだと思っています。私も、子育て世代で先ほどの一時預かりも利用したことがあります。確かにおっしゃるとおりで、取れるときと、取れないときがある。あと、ファミリーサポートで、ご家庭で一時預かり保育をやっているんですけども、重なっちゃうこともあったりだとか。あとはどうしても保育

園も、実は、今立川市は保育園的にはもう充足しちゃっていて、偏在な人気のあるところと、逆に定員が埋まらないところがあって、定員が埋まらないところには、要は経営が大変だから経営助けてという話もあるんですよ。だから、その一時預かりの場所の受け方だとか担ってもらうところというの、通常の保育のあれで児童に空きが出ちゃっているところを、仮に立川市で何か助けるとか何とかというのであるならば、一時預かりを受け入れてくれるとか何とかというような条件つきで、より使い勝手がいいような形にしていければなど、それは私も体験をしているので、ごもっともなので、今後のためにそれは子育て部門にももう少し実態を考えよう。

（参加者）

実際は、普通に保育園に預けられなかった人がずっと使っているというのもあるというよう

な。

（市長）

そうですね。あとはもうこれニュースで出ているようなこともあるんだけど、見せかけ待機児童もいるわけです。保育園、第2、第3希望まで書いてくれれば入れる。だけれども第1希望しか書かない。なぜだか分かりますよね、理由は。今社会問題になっている。なので、今立川市の課題としては、保育園についてはもうある程度充足、待機児童はほぼ解消できると、逆に、保育園余りをどうしようかという方向に。でも、その一方で、医療的ケア児であったりだとか、あとは、これもちょっと季節性があるとなかなか年がら年中必要というわけではないんだけど、病児保育の問題で、立川市は公立の保育園が今6園。公立保育園の役割というのは、今後、民間保育園がどんどんどんどん子どもがいなくなって倒産するんだったら、公が引くのか民が引くのか。だけれども、公が保育をやる意義というのは、民間ではなかなかやってもらえないような部分をやるから公を、公務員を使ってやるということだったら私は意義があると思っています。例えば、病児保育等で看護師さんをちょっと配置をしてできるような何かモデル園じゃないけれども、場所の問題があるので今すぐには言えないんですけど、そういうことも将来的には考えていきたいと。

小学校の建て替えなんですけれども、幸小学校と西砂小学校は、今あの地域子どもが増えていて、どんどん住宅が増えている関係で、教室が足りないんです。教室が足りないんだけど、これは前に増築をしたときに、もっとちゃんと将来を見据えて、2階建てにしておけばいいのに平家建てにするから足りなくなるんだというので、急遽この春から1教室足りないというので、それはやりくりでやるんだけど、それで教育委員会は取りあえず大丈夫だという話なんです。ただ、その一方で、不確定要素というのもあるから、西砂小学校については早めに、今水泳の授業を民間に委託をしていくということを進めているんですが、そのほうが教えるほうも上手いし、西砂は早くそっちに移そうと。そうするとプールの場所が空くじゃん、だから空きスペースをつくって、最悪の場合プレハブでも何でも建てられる。ただ、とはいっても、幸小学校は水回りにしても何にしても、今の私になる前の前期の公共施設の再編計画の中では、幸小学校は入っていないんですよ。ただ、その一方で、今頓挫しちゃっているのは五中の建て替え、これは入札をかけても誰も手を挙げてくれない。不調じゃないんです。入札中止、誰もやらないという状況なので、根本的に今建設業界は人手がいない、資材価格は高騰して、最後は何とかなったのが二小の複合施設なんですけれども、それが1.5倍ぐらいのお金になっちゃっている関係があって。要は、計画を立ててもそれどおりになんか進まないよねという。お金がもうべらぼうにかかっちゃう、であるならば、そもそもコンクリート、耐用年数とかあ

るじゃないですか、それに基づいてもう建て替えをしなくちゃいけないよねというので計画をして、まだそこまで至っていないところは中規模改修、大規模改修という形で、とにかく子どもにとって水回りだとか見た目、使い勝手をよくする、躯体はそのまま残してと。建て替えばかりを考えるんじゃなくて、実際にこのコンクリートがどれぐらい劣化をしているのかというのをちゃんとコア抜き検査をして、それでその学校、まだこのコンクリート、例えば20年、30年もつというんだったら、改修して、みんなが使う部分は小綺麗にしておくということもあるよねということで、来年度の組織改正をした以降に、市長公室、私直下の中にそういった公共施設の再編計画をもう徹底的に見直す担当のセクションを、まさにファシリティマネジメントをやってもらえるような部署をつくって、根本的に現実可能性のある学校、学校だけじゃないんですけども、建て替えをして、計画の見直しをしていこうと思っています。それをお待ちいただいているということで、その子たちにもさっき話して、君たちがいる間にできないかもしれないけれども、でも、ちゃんと子どもの意見を表明するのは、私はそれは、その子たちは偉いなど。だから、それには私はちゃんと子どもの意見にはちゃんと受け止めて、わざとその子たちに見えるように、市長がちゃんと来たんだというのは、教育長を連れて来たんだというのが分かるようにしていかないと。こそつと見に行ったらしょうがないから、それは自分たちが何かを起こせば、結果はすぐ伴わないかもしれないけれども、世の中動くかもしれないということを体験させてあげたいなと思っています。

あと、最後、ツツジ等々に関しては、道路課にも見させて、ただ、どうバランスを取るのかというところは考えさせてください。あと今後、自転車に関しては、警察のほうで歩道通行のルールの見直しを進めているようです。立川市内で歩道と車道が大きいところあるじゃないですか、昭和記念公園の周りだとか。そこは自転車がもともとルールで車道側、歩行者は内側なので、その幅が取れるところはそのまま自転車の歩道通行可にするんだけど、それ以外のところは自転車通行可を外すそうなんです。原則車道。それは自転車も危ないし車も危ないんだけど、ただ、歩行者の安全性のほうを優先しよう。警察のほうとしては、これは別に立川市だけの話ではなくて、全般的にそういうふうな取扱いに変えていくということがあるので、立川市としてはさっきの落ち葉とかごみとか、歩行者が滑って転ばないようにという観点での取組になっていくのかなと思っています。

では、次の方、お願いします。

（参加者）

私は、子どもの障害のことで伺ったんですけども、高次脳機能障害というもののなんですけれども、あまりご存じないかなと。

（市長）

私、知っています。重度訪問介護の事業所をやっていたので。

ご病気の特性も、お医者さんほど分からないですけども、大体分かります。

（参加者）

この高次脳機能障害というのは、脳血管障害とか事故とかで脳に障害を負った人になるもので、その後遺症がとても見た目に分からないもので、もちろん進退があるんですけども、一番大変なのは失語症といって、言葉が出なくなって、一番困ったことは、最近は、救急、災害とかのときに避難所にいったときに、失語症の人は静かでいいと言われて。何かというと、言葉が話せないからトイレに行きたい、水が飲みたい、寒い、お腹も空いた、でも何も言うこと

ができない。でも、そこにいらっしゃる方はそういう障害を知らない方、静かでいいと、なので、そういうところにも、今東京都で意思疎通支援者の講習会をやっているんですね。そこを卒業すると意思疎通支援者という資格をもらえて、そういう避難の場所とかでお手伝いしていただく人がいるんですね。なので、立川市でその東京都の講習会を何人ぐらい受けて、何人ぐらいがそういう支援者になられているかも分からないんです。

（市長）

私も恥ずかしながら、調べないと分からないです。

（参加者）

立川市で、東京都がやっている失語症サロンというのがあって、お仕事センターというところで偶数月の土曜日、第1か第3にやっているんですけども、私の子どもは失語症ということですけども、失語症は高次脳機能障害の中の一つで、障害者相談課という課は立川市にはないんですよ。

（市長）

立川市は、障害福祉課が担当になります。

（参加者）

私、昨日、国立市で障害者相談課さんが参加された会に参加したんですけども、とてもいい会で、その障害者相談課の中には支援者相談員という方がおられて、どんな障害の相談にも乗ってくださるんですね。立川市でもそういう課があれば、なくても立川市でやってくだされば、教えてくださればありがたいんですけども。いきなり脳血管障害とか事故で倒れると、家族はどうしていいのか、何をしたいのか分からないです。障害福祉課に尋ねても、あまりよく知らないんじゃないかなと今は思っているんですね。回り回って、私は今立川市の高次脳機能障害、スマイル立川という会に入っているんですけども、そういうところに家族が泣きながら訴えるんです、どうしたらいいんでしょうかと。でも、最近は社協だとか、包括の中とか参加されているので、いろんなアドバイスはいただいているんですけども、そこから進めればいいんですけども、なかなかうまくいかない場合もあるので、そういった相談するところがあればいいのと。あとは、職員の窓口の方は高次脳機能障害と失語症を理解していただいて、家族が相談に行ったときに、いろいろアドバイスいただければありがたいと思うんです。

（市長）

分かりました。

私も市長選挙落選した後、仲間と訪問介護事業所を立ち上げました。介護福祉の実務者研修まで私資格を持っていて、いわゆる重度訪問介護と言われる介護事業所を運営していて、市長になってからは、もうほかの方に任せているんですけども、高次脳機能障害もいろんな症状が出るじゃないですか。私の知り合いでも、事故で、自転車で転んじやって、見た目は変わらないんだけど、漢字が全く分からないという。それはもう仕事に差し支え、会話はできるんだけど漢字が分からなくなったという人がいたりだとか。今の失語症という問題からすると、確かに本当に何も発せない、でもそういう人だということを理解をする人間がいないと、ほったらかされて終わっちゃうというところもあるので、それをどこまでどういう形で分かるよう

にするのかという、何かマークをつけてこいというのも、それもちょっと人権的にどうかなと思います。それこそ今赤いヘルプマークがあるじゃないですか。そこを見ると何とかと書いて、普段は見えないけれども、ヘルプマークしか見えないけれども、裏に見える。

国立市は、障害認定をする東京都の機関もあつたりだとか、障害の福祉の部分でいい面もあれば、そうでない面も当然ある。私、事業者をやっている、何だこれはという、ほかの人から見るとそれはちょっとあんまりじゃないのという運用もあつたりというのは経験しているんです。立川市の場合でいうと、障害福祉課が相談の窓口になります。それはいろんな身体、精神、知的、全ての障害のある方に対して先天性、中途含めてその障害者としての認定や、あるいは医療費助成の問題だとか、そういった手続の問題もあれば、窓口の相談業務も立川市は障害福祉課で行っています。

ただ、今のこの段階で胸を張って言えないのは、その人たちの能力差というのが、それは人事ローテーションをしているのじゃないかというところもあるんだけど、ただ一方で、障害福祉課はすごい残業時間が多いんです。それを何とかしてあげなくてはいけないと思っていて、立川市はその障害福祉課に来られる方が非常に多いです、実は。残業時間が、ブラック企業並みになっていて、その一つが、昼間は受付をして、どうしても専門性のある相談なのでそこで相談を受けてから、手当系などの東京都に提出する書類だとかの作業は残業して行くと。立川市でできるものと東京都の制度の受託事務、委任事業でやっているものの書類を17時からやり出すわけですよ。そうすると、毎日何時間も残業をしていて、そこを何か相談と裏の事務を分けなくてはいけないので、もう属人化していて。例えば、ある人の相談から手続まで全部その人にかかっている、何人も。これは生活保護もそうなんだけれども、その仕事のやり方を変えなきゃいけない、相談は親身にしなくてはいけないんだけど、手続は効率的にやらなくてはならないじゃないですか。その部分を考えるゆとりすらないほど、人員がいない、その余裕すら持てる時間がないので、どこかでその改善を考える、業務フローはどうなっているのかということをやちゃんと見直して、どういうふうにすれば本来寄り添うべき、時間をかけなくてはいけないところと時間をかけなくてもいいところが当然あると思うんですよ。申請書とか何とかはもう電子で、ただ単に申請するだけだったら家で、スマホでできるように。

だんだん高齢の親も、今は過渡期なので、私がたぶん20年後になったらスマホを使っているんですよ。だから、それはそれでどこかで早く変えていかないと、でも、変えちゃってもうそれしか使えませんかよとなったら、今の人が困るじゃないですか。だから、変えるのは変えながらも、そこへのフォローというのは併せながらやっていながら、個別具体的に個々の何か問題、確実的な手続では済まない部分については、相談業務というところはちゃんと専門性を持っていく必要があると思います。

（参加者）

私も国立市にいたときに、10年以上前に、もうその相談員を入れてくれたんです。そのときの費用は、東京都が8割で国立市が2割だった、予算は少ないんだよ、国立市はと。立川市はないんだねというところで、入れていただきたい。

（市長）

でも、これは一般論なんですけれども、東京都の様々な事業は、初めは支援は手厚いんですよ。ただ、だんだん支援割合が変わってくる、気がついたら市だけの単費になっているというのが、障害のことに限らずある。なので、立川市でいえば、障害や、あるいは高齢福祉の問題もありますけれども、その部分と、あと、社会福祉協議会で担っている地域の包括支援の問題、

あるいは今地域アンテナショップという形で、そういったところとやかに役割分担をしていくのか。それぞれの同じサービスを同じにやっている中で、立川市はさっきも言ったようにローテーションがあるから、この相談はより専門職としてずっとそこで働いているローテーションが少ないところにそういった相談機能を持ってもらったほうがいいのかとかということは、今後福祉のあり方だとかも含めて考えていく必要がある。職員のことを考えると、もう仕事がいっぱいいっぱいでふらふらになっている。だから、そこを改善しないと市民サービスは向上しないなと思っていて、そういった面でもちょっと職員の働き方改革とかいろんなところで言われるけれども、立川市の職員の働き方改革は、市民サービスを向上するために立川市の職員の働き方をどういうふうに改善をしていくのかという観点で考えていきたいと思っています。

高次脳機能障害の中で、今のは一例なんでしょうけれども、失語症で自分の言いたいことがなかなか自分から発せられない、そういった方もいるというところは、やっぱりオーソライズしておかなくてはいけないのかなと思いました。宿題としてお預かりさせていただきます。

(参加者)

ありがとうございました。

(市長)

では、次の方。

(参加者)

昨年の10月末にも女性センターのタウンミーティングにも参加させていただいていまして、同じ質問になるんですけども、旧耐震、マンションの耐震の助成への要望といいますか、旧耐震基準のマンション、いわゆる団地への耐震診断、耐震改修の助成を検討していただきたいということでお願い申し上げまして、そのときは早急に議題に上げていただけるというお話だったので、その後どのようにになりましたでしょうか。

(市長)

現状で言えば、立川市としては、具体的に市独自の制度として乗り出せるところまでの懐事情と相談がついていないというのが現状です。ご存じのとおり、東京都の緊急輸送道路沿いの建築物に対する耐震診断と耐震補強、あるいは建て替え等々に対する補助業務は、東京都からの委託もあって立川市を通してやっています。民間のマンションということですが、マンションだけでいいのかどうなのかということもあるし、一般住宅でも建築基準法上クリアしているところとしていないところはあって、それをどこまで立川市として、私有財産に対してお金を出せるのか。できればやりたいんだけど、お金の使い方の順序としては、大変申し訳ないんですが、ちょっとプライオリティーは下がってしまうのかな。理屈が必要じゃないですか。

マンションにも、公団、自己所有の分譲、賃貸とかがあって、ここら辺でいうと、ほかは結構賃貸のところのほうが多いですね。例えば、柏町団地、若葉町団地、けやき台団地等々は賃貸で、けやき台団地の国分寺側は分譲、南側でいうと、富士見町団地の新生小学校の側は分譲で、反対側は賃貸。これは供給公社。

それに対して、団地とか、民有のマンションなどが、早い者順で手挙げ方式にして、いくらまでの予算だったらやるというふうに、実際やるとなったらするのか。お気持ちは分かるんだけど、こうしたことを考えると、公平性という観点からすると、実際に耐震診断までだったら、それは現状認識。耐震改修にまでお金を出すというと、沿道はそれによって人の命とか、

第三者に対する損害が発生をすとか、いざというときに命の危険を多くの人に与えるという、その基準で言うのであるならば、では、そういう沿道にあるほうが優先じゃないかという。今、東京都の制度はそうじゃないですか。そうすると、私たちの命はどうでもいいのという話ではないんですよ。だから、そこは公のみんなの税金を使うというふうになると、普通の戸建ての家は、私たちはいいんですかという話の中で、全てやらないと駄目になってしまう。マンションだけというくくりにならないので、よくよく考えてみると、何かしらの形でそこに理屈づけを考えなくてはいけないのかな。だから、私も前回そういう話をして、何かできないのかなと思いながらも、何かうまい理屈づけがなかなか思い浮かばないんですが、何かいい理屈づけはありますか。

（参加者）

今日申し上げようと思って考えていたのは、災害時の避難所訓練の、11月17日に第四中学校でされたと思うんですね。私も参加しまして、すごいイベントで盛況だったと思うんですけども。やっぱりショックだったのは、何ですかね、体感として、もうここに何人寝られるのか、もうたぶん大災害になったら収容人数をはるかに超える方々が押し寄せて大混乱になるのではないかなと、想像に難くない感じでしたので、せめて、例えば、耐震で多少なりともと。

（市長）

在宅避難ができるようにという。

（参加者）

そうです。推奨を今もしているんですけども、できるだけ避難所に行かないで済むようなという方向でやっておりますけれども、やっぱりそれを実現可能にしていくために、市内にたくさん団地さんあると思うんですが、避難ステーションというんですか、そこに避難していただくんですけどもということが可能になっていくのではと。

（市長）

でも、それは、その方たちは多分避難所に行かなくて、要は、避難所の混雑というのか、緩和にはなるけれども、そこに例えば集会施設だとか何だとかというところがありますよね。そういうところだって、空いている部屋があればあれだけでも、要は、個人が住んでいるところにほかの人が避難してくるというのは、なかなかできないじゃないですか、公共の何か共有スペースがない限り。だから、そういう例えば共有スペースを、何か管理組合と協定を結んで、いざというときには二次避難所としてちょっと利用させてくださいみたいなことの代わりに、では何々とかということだったら話としてはあるのかなと。自分の建物を倒れないようにするということは、避難所の混雑の緩和にはなるけれども、そのことによってほかの人がその家に来られても迷惑じゃないですか。お友達だったらいいんですけども。なので、その災害の理屈づけにするんだったら、さっき言ったように、集会所を何かのときには提供しますから、では、せめてそのためのこの集会所とそれ以外のところも耐震助成をしてくださいますかと、耐震診断のあれぐらいは出してくださいとか。集会施設に関しては、改修するんだったらそれはうちの住民だけじゃなくて、ほかの地域の住民も受け入れるんだから、一部助成してくださいよというんだと理屈がつくのかなという、例えばなんですけれども。

（参加者）

受け入れるどころかというと、またちょっと。

（市長）

だから、私が何かこうやろうと思うと、最終的にこれは建てつけの問題で、予算の提案権は私しか持っていないんですよ。皆さんの税金の使い方の仕分けをするのは私しか持っていないんだけど、それを決められるのは議会で、議会しか予算の決定権はない、勝手に私使えない。そうすると、これこれこういう理由で、こういう筋書きだったら、これだったら市民の皆さんから不公平感がないよねと。それは時期の問題とかもありますよ、こっち先にさせてこっち、どれでも全てが不公平感がないなんていうことはないんだけど、少しでも不公平感がないような制度設計にしないと、市民の理解は得られないので。そのこの部分は優先順位をつけたりだとか、よく公益性と言うんだけど、より広い人にその益が及ぶとか、あとは民間に任せておいたら何もできないと、民間代替性がないものに関しては公がやるという。それは道路であったり下水道であったり何とかという話になってくるので、なかなかいい返事をしたいんだけど、理屈づけをどうするのかというのはなかなか難しい。

（参加者）

例えば、近隣で八王子市がマンションの耐震助成をされているので調べれば。

（市長）

他市ではやっているところで、それを立川市としての財政的な優先順位が高いのかなのかというのは最後の判断になると思いますけれども、制度設計をどうされているのかというのは調べてみたいと思います。一般的には、道路沿いとか何とかということで、倒れてしまうと物資を運べなくなってしまうとか、そこら辺はやっぱり震災とか何かあったときの道路確保というところは、どうしても優先順位としては高くなってしまうのかなと思います。では、後ろの方。

（参加者）

本日は貴重なお時間をありがとうございます。

私が申し上げたいのは、端的に言うと、若者世代がこういう政治参加、政治に興味を持っていくきっかけを市長さんがどうつくっていくのかなと思っていて、今この場を見渡してもたぶん若者世代は私だけで、社会的にも投票率が若者は低いとか、政治に興味がないとかというのは結構大きな問題だと思っていて。日本の未来を担っていくのは私たち若者なので、それは大きな問題だと思っています。投票に行くとか、こういうタウンミーティングに来るみたいなのは、結局、若者が個人で行こうと決意して来るものだと思うので、結局は個人の判断に委ねられるところがあると思うんですけども、若者の政治参加、若者の興味を引くとか、きっかけをつくるというのは、市長さんとかの努力も結構大事だと思っているので、今後どういうふうに、今回のような場で若者を呼ぶだとか、具体的な方法とかがあれば知りたいと思います。

（市長）

ありがとうございます。

一つには、若い世代の方たちにも立川市に関心を持っていただきたいという、そのささやかな取組は、さっき言ったような子どもが小学生でも市長に直訴したっていいんだということを、これは小さい話で徐々に積み重ねていくということであろうと。それから、実は先日、高校生

世代を対象にしたタウンミーティングを星槎国際高校立川でやりました。いろんなさっきの失語症のことじゃないんですけれども、実は色が分からない、何色が見えないから、黒板で字が見えなくて、分からなくなつて学校行けなくなったという。それも人によって色が違うからとかという、そういうこともあるのかと、不登校になるきっかけとして。それは教育委員会の中でもそういうことも、学校の先生にも知ってもらって、そういう子もちゃんと分かるようにしなくちゃいけないなど。立川市としてはそういった若年の世代の方たちも対象にして、それは事業としては小さいんだけど、こつこつと私とも話をできるような、私もそういう方たちからも気づきをもらえたり、さらに、これは令和7年度、議会がその良さをお認めいただければ話、前提なんですけれども、私の公約の一つで若者会議、若い世代の方たちに、いろんな知恵をもらって、それを行政に生かしていこうという、そういった取組を思っています。立川市だけでやるとあまり集まってくないと空振ってしまうということで、近隣市と連携して一緒にやろうという取組を令和7年度に仕掛ける予定です。そういった若い人たちが今まで何かに参加しても結局何も変わらないよねというのが、要は、政治不信につながったりだとか、諦めにつながって、最後は無関心につながるわけじゃないですか。そういったところを100%叶えられるという話でもないんだけど、立川市も子ども委員会だとか子ども未来会議だとかというのをやっているんだけど、それを高校生、大学生ぐらいから20代ぐらいまでの人たちを中心としたそういった会議体で、そこにそれぞれの市で実現をしていこうという取組は、予算が認められればやっていきたいと思っています。

地道な話で、あとは私もいろんな形で情報発信はしていて、私はYouTubeで、毎週、今日も18時から、この1週間こんなことがありましたとトピックスを上げています。これも早く編集したいなと思っているんだけど、星槎国際高校立川の生徒に聞いて言われたのが、これは今日自治会の人もいるので、地域に参加したいんですって、その生徒たちは。行くと喜んでもらえる。若い来てくれてありがとうと言われて、とても楽しいんだけど、どこの自治会で何をやっているのかは分からないんですって。そこは錦町にある学校なので、近くのところ、子ども食堂とかもそこでやったりだとかしていたりする、どちらかというと、社会に関わりを持ちたいというもともと意識を持っています。自分たちが社会から一回遠ざかったのを戻ってきて、関わりを持ちたいと思っている子どもたちなんだろうけれども。どうやって情報を得たらいいんですかねという、宿題を頂いているんです。なので、それを今度、自治連の人とか何とかにも、そういう若い人でも関わりたいと思っている人はいるんだから、それは発信の仕方考えたほうがいいですよ。何が一番いいと聞くと、Facebookはどちらかというとアップーエイジじゃないですか。立川市がやっているのはホームページ、これは自分から見に行かないと。あとXは幅広いけれども時々炎上する、あとはLINEに登録すれば、今プッシュ型でご案内は行くようになっていると。あと、やっていないといたら、インスタのリール動画とか私はよく見るんですよということで、今私毎週末YouTubeのショートで、何かこう自分でまず試してみて、それがどれぐらい反応があるのかということを見定めたら立川市でもインスタで情報発信とかというのでも考えてもいいのかなと。ここの自治会、自治連とかでも、こんな情報ここでこんなことをやってますとかというのを、若者はインスタか、あとはTikTokとかいろいろあるのでしょうけれども、一つ一つそういった若年世代の方たちにどう発信したら刺さるのか、何げなく立川市の情報を得てもらえるのかということも考えていきたいというのが、この間、高校生たちと話を教えてもらったことです。

いろいろとあの手この手考えて、私も聞いただけで、立川市の職員を使ってやらせて空振っちゃうと、何かそれは悪いなと思うところもあって。まず、自分で嫌いじゃないから、いろんな方法を自分の寝る時間を割いてやってみようかなとは、うまくいきそうだったらやろうとい

うことで、進めていければなと思っています。

（参加者）

付け足して、さっきの平成新道の前のお話をしましたけれども、自分が住んでいるところだけじゃなくて、全体的に見ていただきたく思います。

（市長）

分かりました。

（参加者）

五日市街道行きましたら、物すごく歩道が綺麗になっています。私のところもそんなだったらいなと思いました。よろしくお願いします。

（市長）

一応、皆さんにお伝えしておきます。立川市の道路課、事故があったじゃないですか、陥没の。立川市にはあれだけ深いところにあれだけ大きい管というのは、東京都の流域下水道しかないの、それは東京都の所管なので、でも、立川市の水道管も一応計画的にはずっと点検しているんです。道路課の職員の人には、通常もずっとパトロールしているんですが、さっきの见えないところがないとか、いろいろとお手紙を頂いたりするので、それになるべく迅速に対応して、穴が空いていたら、簡易補修なんだけれども埋めたりするようなことは、小まめにやってくれるようにはなっています。そのパトロールの途中にどこに下水管が埋まっているのかという地図を、もう一度確認を道路課の職員にはして、特に何かそこに異常がないのかということに注意深く見てと。穴が空いていないとか何とかということと、あと、下水道部門でも下水管の中を見えています。

あと実際に、何か超音波で地中の空洞調査をしていて、過去にもその調査で分かったところ是对応している。経過観察というところがあるらしいんですけども、そういう経過観察をしているんだけど、変わっていないと。その状況は、直ちに何かにするということはないというようなところは、そのままずっと経過を観察をしているということ。あとは、一番大きな幹線でいえば、緑川幹線。ドン・キホーテとかの曙町のところからずっと国立のほうに抜けるところがあって、立川駅前のところから、そこに関しては掘り起こしをしてヒューム管を入れ替えているところを、今その先のほうは、中にコイルを内側から巻いていって固めるというような、補強工事はこの間、その緑川の下水道幹線に関してはやっているということで。あのようなもともと深いのはないんだけど、一応こういう時期なので、国交省とかから言われる前にやろうというので始めています。読売新聞でも取り上げていただいていたので、ご存じの方はご存じかもしれません。次の記者会見でも一応こういうことで立川市では対応していますということは、記者から聞かれる前に言おうかなと思っています。でも、もしお気づきの点があったら、ここ穴空いてるとか、何か急にひび割れたとかということがあったら、これはどんなに見ていても100%分かるわけではないので、道路課なり、あとLINEとかでもその写真を撮って送ってくれればと思います。

次の方、どうぞ。

（参加者）

先日、立川市の第5次長期総合計画のパブリックコメントに一応出したんですけども、あ

れを読むと、前期ですから5か年計画ということなんですが、今注目されている生成AIの話が一言も書いてなくて、今行政でも、恐らく民間はもちろんなんですが、行政にもどんどん生成AIの技術が取り入れられて、いろんなコンサルティング会社も民間企業にありまして、包括的な提携も自治体とやっているところがいっぱいあるんですよ。立川市ぐらいの大きな市になって、やっぱりあれを全く導入しないでこれから行政を進めていくというのは問題ではないかなと思ってコメントさせてもらいました。それで、企画政策課に連絡しまして、参考までに、民間企業としてはこんなことが今行政のコンサルティングで、包括提携している会社がありますよということで、2社ほどご紹介申し上げたんですけれども、ぜひこれを進めていただきたいということで、先ほどから出ている行政サービス、働き方改革も含めて、DXに関わるところはやっぱりこういうものを活用していくんだということですね。先ほど、災害の地震があったときに、立川市、例えばどこのマンションだとか、そういったところが、今のAIを使うといろんな予測をしてくれるんですね。もちろんほかのAIを使ってもしょうがないので、行政に特化したAIもありますので、そういったものに立川市のパラメーターを入れてやっていけば、相当いろんなことが分かってくるんだと思います。市役所の市民課の方々は非常に大変なんですよ。ですから、それは複雑化するし、いろんな災害も起きてくるし、いろんな面で、先ほどの子どもの育て方とか、いろんな障害の問題とかありますけれども、そういうのをやっぱり総合的に中長期の視点で予測していくということを、ぜひやっていただきたいと思っています。

それから、横田基地のPFASの排水処理について、先日、東京都が立入調査したところ、非常に投げやりな回答しかなくて、検査データも出さない、それから排水量がどれくらいあったかというのをちゃんと記録をしていたのかしていないのか、そういうデータを一切公表しなかったという話を聞いたんですけれども、その点について、立川市も何か一つ東京都に対してですけれども、コメントをしたほうがいいんじゃないかなと思っています。

それから、今小平市と日野市に大きなデータセンターの建設が予定されているんですが、立川市にもそういう計画があるのかなのか知りたいなと思ったんです。あのデータセンターというのは、基本的には雇用拡大にはつながらないんですよ。やたらめったら電力だけを消費するものですからね。ただ、今、先ほど言ったように、AIの技術はどんどんこれから進んでいって導入が広がっていくと、あのぐらいのデータセンターが必要なので、増えていくんですよ。あれは、先ほど言ったように、大きな電力を使うので、そういう電力インフラがあるところを狙って進出してくるんですよ。例えば、そんなものだったら、人があまり要らないんだったら山の中に造ればいいじゃないかと言うけれども、それは駄目なんですよ。結局、電力インフラがない。

それから、最後は、以前のタウンミーティングで言ったんですけれども、震災のときに、立川市にはまだ農地がいっぱいあって、農地の中にビニールハウスが結構点在しているんですね。ああいったところを避難所として使えるように、農業振興会議の場で、農業委員会の場で提案してくれるという話をしたと思うんですよ。それがどうなったのか聞いていないので、もしご存じでしたらお聞きしたいと思います。能登半島地震のときに、結構あれが、ビニールハウスの中へ避難されて、ちょっと寒い時期だったというのもあるんですけれども、避難場所に、一時的ですけれども、いい避難場所になっているということで聞いたので、立川市もそういうことを改めて協定として決めておけば、避難所はここですよと、防災マップに書いてあっても、やっぱり近いところにそういうのがあれば、一時的でもそこに逃げ込めると、夜中かもしれないし、そういう意味で、そういうのを農家と協定で一応決めておけばいいかなと思っています。

(市長)

ありがとうございます。

最後の農家さんとの話に関しては、現実問題といえば、まだ調整はできていないということです。農家さんとも話はする機会はあるんですけども、ビニールハウスはやっていないところもあったりだとか、そこら辺の実態把握もしなくてははいけませんし、それについてはまた引き続きということとさせていただきます。

データセンターについては、立川市内は、今のところそういう話は聞いていないです。聞いているのは、一つは昭島の物流倉庫と一緒に巨大なデータセンターがあって、私小平の件は知らなかったんですけども、日野市の日野自動車の工場の跡にかなり大きなものができるような、他市のことなので噂ですけども、お聞きをしています。だから、現状、立川市でそういうものをつくるという話は一切聞いていないですし、今のところ立川市では工場の跡地も狙われそうなどころはないのかなというところでは。

横田基地のPFASの問題なんですけれども、担当が行っていろいろと調べて、どういうふうに、今回流れたって向こうから言ってくれたけれども、大雨で流れたって話ですが、過去にも大雨はあって、本当にそうなのか。ただ、中に入らせてくれたということは、これはこれで一歩前進だけれども、その間、東京都の5市1町でずっと国、横田基地に対して、あと北関東防衛局に対して要請をしていた中で、あれも急だったんですよ、入っていいよという話が来たのが。なので、それで行って来て、でも、あれだけだと不十分なので、そういった投げかけは東京都と一緒にしているという状況です。今その5市1町で、横田基地のPFASの問題だけではなくて、いろんなオスプレイの問題だとか、いろんな騒音対策の問題だとか、この間、そこは連携をしてやっているので、今は幹事市が羽村市で、持ち回りでしているんですけども、そこを通じてそれぞれの市の考え方で折り合いのつくところというところを調整しながらなんですけれども、行政はしているということです。

PFASに関しても、2月12日の記者会見で、昨年度に引き続き環境モニタリングの一環として立川市所有の井戸のPFASの調査結果は公表しますので、そこでご確認をいただければと思います。あと、今回は民間が所有をしている、立川市が防災井戸という形でしているところの結果については、これは調べるときに、民間なので場所も数値も特定されるような発表の仕方はしませんということで、何か所調査して、来年の春からは水質基準になるということとですけども、今の段階での暫定基準値としての1リットル当たり50ナノグラムよりも超えてしまっているところが何か所なのかということについては、記者会見で公表する予定になっています。

ということと、あとは、生成AI、長期構想は、私が最終的に考えたのは未来ビジョンというところだけで、その前から市民ワークショップだとか何だとかというところで、ずっと立ち上げて積み上げに応じてきているのをカテゴライズをさせてもらったというところで、どうしても10年間の計画と5年間の計画なので、抽象的な言葉、要は、いかようにでも施策としては取れるような、それは良い面もあれば悪い面もあると思います。ただ、今の現状の立川市の行政内の情報でいうと、Wi-Fiすら、職員が外部との接続を、要は情報漏えいを物理的に遮断をするということに重きを置いていたがゆえに、窓口対応等でも、これは働き方改革にもつながるんですけどもパソコンでインターネットにつなげないという、個人の携帯でこういう、それはあまりにもずさんじゃないと、この時代にと。

(参加者)

それはまずいですよ。

（市長）

そうなんですよ。だから、そこをまず、今、これもめちゃくちゃ金がかかる話で、今政府のほうでガバメントクラウドの移行をしろということなので、もうそれで全部合わせると学校のやつが何十億でしょう。だから、学校のDX化とか、あと庁内のDX化等々で、億単位の投資をこれからしていくと。その中で、本当に市民にとっての市役所の利便性、わざわざ市役所に来なくても済むものは来なくても済むようにする。職員の仕事の効率性という、今の生成AIのもののや、私なんかも自分で文章をつくる時には、全部つくってくれというよりは、ここの文章を短く何字にまとめてとかというので、個人のパソコンの中では、私の文章は私の責任で使っているという、だからChatGPTを使ったり、Geminiを使ったりしようとしているんだけど、ただ、今後、AI、もう政策の中では子どもの最適化、学校のそういったDX環境が整ったときには、子どもの学習の習熟度に応じてどういう教材をしたらいいのかということにも、AIを入れていく。個別最適化の教育環境の提供とか、宿題の在り方とか何とかということもしていきたいし、さっきの災害という観点からいうと、昨日もいろいろと庁内の図上防災訓練とかもしたんですけども、実際にでは被害想定して、いざ地震が起きました、では、この避難所に今何人いるのかというとき、これは過去の例なんだけど、東日本大震災のときに当時の職員の方が、いろんな情報が上がってきたんだけどどの情報が正しいのかよく分からないと。でも、それはもうざっくりでいくしかないじゃないですか。そのときに私なんかが考えるのは、では、例えば今のこの空間、写真でぼんと撮りましたと、それをAIにお任せしたら、大体このメッシュでいうと何人このエリアには人がいますとかということが、AIを使えばすぐ分かるじゃないですか。何人ぐらいこの避難所にはこれだけ殺到しているからこういうふうに分散していこうとかということにも使えるのかなという。

今後その使い方、行政目的という形でいえば、とにかく情報漏えいというところに立川市としては重きを置いていたんだけど、情報漏えいはあってはいけないんだけど、今はどんどんクラウドの中で、実際に情報漏えいはハッキングされたりクラッキングされて出るよりも、ただ単にICカードを忘れたとか、USBを忘れたとかというほうが多いんですよね。だから、そういった面では、情報インフラに過度に恐怖を抱かずに、そのセキュリティーという面では、そのクラウドの中でちゃんと保持してもらいながら使えるものは使ったりしていく。なので、正式には言葉としては入っていないんだけど、いかようにも解釈できるような建て付けにはなっているので、それは実際の施策展開の中で適宜的確にそれが使えるようなインフラ環境が整った段階で進めていきたいなと。まず、そのインフラ環境すら立川市は整っていないという大問題があるので、そこからまず手をつけていきたいという状況です。

（改革推進課長）

1点補足をさせていただきます。第5次長期総合計画のパブリックコメントに生成AIのご提案をいただいて、実は、改革推進課という部署で行政の仕事をどう効率化していこうかと、先ほども市長おっしゃっていた立川市役所にわざわざ行かなくても手続きができるような仕組みに今後変えていくべきではないかとかという、仕事の見直しも必要だと認識しています。それを図っていくためのツールとして、生成AIというのはご意見いただいたとおりだなという認識を持っています。実は、既に一部RPAといって、いわゆる機会に文字を読ませてそのデータからデータを分析して、人間がやろうと思ったら何十時間も、人手も何十人もかかるような仕事をほんの数分でやってしまうみたいなことは、一部もう取り入れたりしているんですね。そういったものの例と併せて、生成AIというフレーズも計画に付け加えていく方向で我々は認識

しておりますし、パブリックコメントの回答にもそのような形で回答させていただく予定で今のところ考えております。

貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

（参加者）

セキュリティの問題は、私、情報セキュリティの仕事をしていますので申し上げますと、それぞれ立川市役所の中にセキュリティのインシデントが起きたときの対応チームというのをつくればいいんですけども、それで、そういうのをいろいろ指南してくれる会社がありますから、スタッフは全部立川市役所の方が、情報システムに関係している方がスタッフのメンバーになって、それぞれ役を設定して、こういう例えば職員の方に変なメールが来て、たまたま添付ファイルを押しちゃったというような情報が上がってきたら、すぐその対策チームが動いてそれが波及しないように対策をします。大体組織の中にそういうチームをつくって、今サイバーセキュリティに対する対応をしているのが現状なんですね

（市長）

今、実は情報セキュリティの専門家を、私のアドバイザーとして入れているんです。その方に立川市の情報セキュリティの問題、DX化の問題、全部見てもらって、変えるときに中途半端に変えると逆に投資としてもったいないじゃないですか。なので、立川市、あまり無駄なくて石橋をたたく傾向があるので、その部分について専門家の立場からどういうところに問題点があるのか、どういうふうに改善をしたら一番予算がかからずに最大の利益を得られるのかという観点から、全部それを見直ししてもらっていますので、令和7年度もその方にさらに知見を借りてということで、実は、そういう専門家をどんどん外部人材を入れてやっているんです。ただ、まだそれを皆さんにわざわざご披露する、要は、裏側でやっている話なので、実際にそれが目に見える形にならないとどうですかと言えない。さっきの話も、例えば保育園の入所の申請とか大量に来るじゃないですか、それを点数化するというのは、もう何年か前から入れて、一気に今まで人手でやっていたのが一瞬でできるような業務の効率化というのは、いくつかの部門でできるところからやっているという感じです。

（参加者）

働き方改革と掛け合わせるとその方向になるのかなと思うんですね。

（市長）

そういう窓口のことも、どこかで何かでやらなくてはいけないと思ってはいて、本当、基本的には来なくても家で完結する、でも、そうはいっても、それだけでは済まないというところをどういうふうに手当てをしながらという形で変えていこうと思っております。

（改革推進課長）

長時間にわたり多数のご意見いただきましてありがとうございました。

これをもちまして、市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

—— 了 ——